

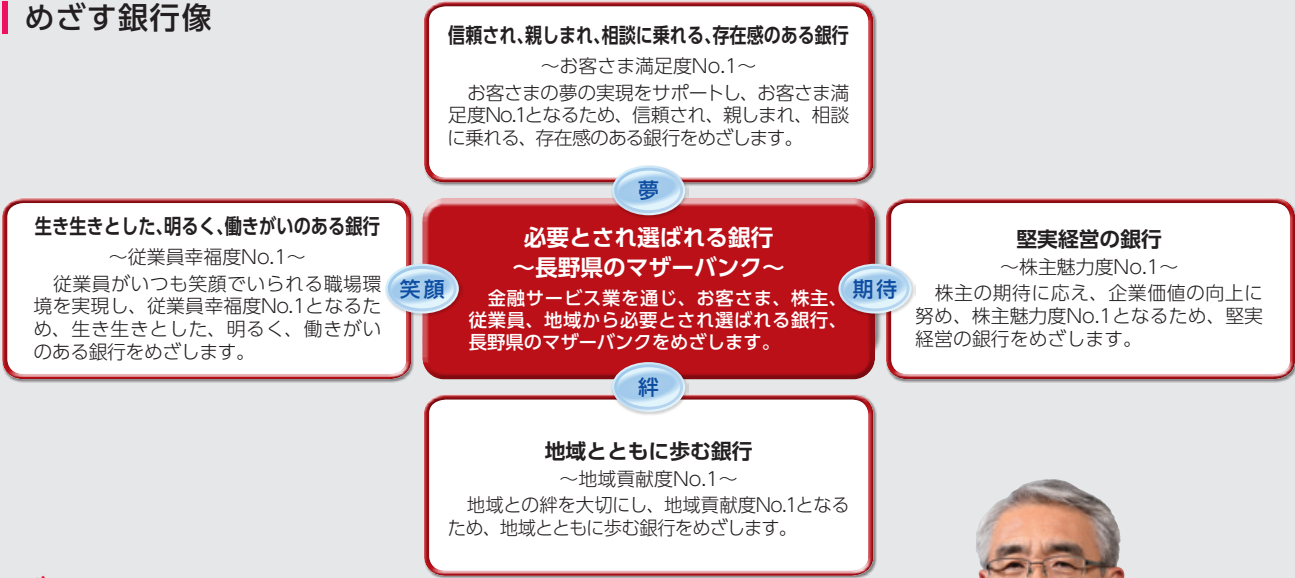
長野銀行がめざすもの

当行は、「お客さまと株主の皆さまおよび従業員の幸福と繁栄のために全力を尽くします。」の経営理念のもと、金融サービス業を通じて、当行の「めざす銀行像」である「必要とされ選ばれる銀行～長野県のマザーバンク～」へ向かって役職員一丸となって業容の拡充と経営の一層の効率化に努めております。

経営理念

めざす銀行像

当行は、お客さまと株主の皆さまおよび従業員の幸福と繁栄のために全力を尽くします。



ごあいさつ

皆さま方には、日頃より、長野銀行をお引き立ていただくとともに、温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。当行についてのご理解をより一層深めていただくため、ここに「ディスクロージャー誌」を作成いたしました。お気軽にご利用いただき、ご参考にしていただければ幸いに存じます。

当行が基盤とする長野県経済を取巻く環境は、観光業の回復と製造業の堅調さにより、全体としては緩やかな持ち直しの動きがみられる一方で、原材料やエネルギー価格の高騰に加え、海外の需要の低迷もあり、受注や生産に弱さも見られました。

当行のお取引先企業も、労働力不足や国内市場の縮小、事業承継等、多くの課題に直面しており、今後更なる人口減少と少子高齢化の進展が見込まれるなか、地域金融機関にとって、企業の持続性を保ち、地域経済の活性化に向けた取組みがより一層重要になると認識しているところです。

こうしたなか、2024年度は「『八十二長野銀行』としての土台をつくり、お客さまと地域のお役に立つ」を基本方針とし、お客さまに統合効果を実感していただけるよう、八十二銀行との連携を通じて課題解決支援の強化、徹底に取り組みました。また、合併により長野県に本店を置く唯一の銀行となる責任感を持ち、お客さま、地域、株主の皆さまにより良い価値を提供するため、両行職員が一体となり合併に向けた取組みを進めてまいりました。

2025年度は創業以来75年間続いた長野銀行の歴史が一旦の区切りとなり、八十二長野銀行として歩みだす大きな転換期となりますが、めざす姿に変わりはありません。両行が何よりも大切にしてきた「地域産業の更なる発展と地域住民のくらしの質の向上に貢献する」という使



代表取締役頭取 西澤 仁志

命を果たすため、それぞれの強みを融合させた課題解決支援を行うとともに、経営基盤を強化し、「地域と共に成長できる銀行グループ」へと変革してまいります。

皆さま方におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年7月

CONTENTS

長野銀行がめざすもの	ごあいさつ	1
長野銀行のあゆみ		2
合併へのカウントダウン	～八十二長野銀行へ向けて～	3
地域密着型金融の推進		9
長野銀行の概要		11
DATA		20
自己資本の充実の状況等		44
開示項目一覧		61

●本誌は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料です。

当行の概要 (2025年3月31日現在)

本店所在地	長野県松本市渚2丁目9番38号
創業	1950年11月15日
資本金	130億円
拠点	本支店 52か店(長野県内51)
	出張所 1か所(長野県内1)
従業員数	545人
主要勘定	預金残高 8,741億円
	貸出金残高 5,035億円

長野銀行のあゆみ

当行は1950(昭和25)年11月、県内商工業者の資金需要に応えるため、長野県商工信用組合として設立されました。その後、相互銀行を経て普通銀行に転換するなかで、創業以来一貫して堅実・健全な経営に徹し、長野県経済の発展に尽力してまいりました。今後も「お客さまと株主の皆さまおよび従業員の幸福と繁栄のために全力を尽くします」の経営理念のもと、めざす銀行像「長野県のマザーバンク」へ向かい、役職員一丸となって地域産業の更なる発展と地域住民のくらしの質の向上に貢献してまいります。

